

申し入れ書

私達は、堺植樹祭奉祝パレード等、天皇在位六〇年に伴う一切の奉祝行事に反対します。同時に、それに伴う一切の人権無視の環境浄化・予防治安弾圧に反対します。

オーストリアの理由は、「天皇」を再び「元首」化し、戦後民主主義解体政策・アジア・世界への再侵略政策の為の「国家統合の要」としてゆく目的をもつてこの奉祝行事が行われよおとこころからです。それは、貴賓行委員会々長・若槻氏の「天皇」元首「発言」にも表われており、到底許せることではありません。

オーストリアの理由は、古くは一九〇三年の勸業博覧会への天皇未阪の際、釜ヶ崎の前身「長町」の下層労働者の地域を、天皇の「お目が汚れないよおに」と、きまごこと破壊し、現在の釜ヶ崎への排除・団い込みを行った事実、新しくは一九八三年の大阪城築城四〇〇年祭の皇太子を仰ぎこの御堂筋オーパニングパレードの為に、キタ・ミナミを中心に市内の野宿の日雇労働者・困窮労働者に対する「一大狩り込み作戦」を行った事実、并が示す如く、過去一貫して、皇族未阪の度毎に困窮して巷にあひれる野宿者・日雇に対して「狩り込み」へ排除・隔離収容）を行い、又、精神「障害者」のシッテルをはられた人々に対して精神病院や家庭内への禁足を行って来ました。

国連人権機関が非難をあげているよおに、宇津宮精神病院が沢山の労働者が虐殺されモルモット化されているよおな事が多くの精神病院の実態であり、多くの労働者がこの「狩り込み」によって精神病院に入れられます。この事は、「狩り込み」が、いかに「下層」労働者差別・「障害者」差別に満ちた、人権的配慮などカケラも見られぬ「強制的」「ご都合主義」「隔

離収容」であるかをあらわしてまいります。

私達は「天皇」の名における侵略によって蹂躪されたアジア人民、日本の被差別人民と並んで、戦時強制徴用・抹殺された釜ヶ崎労働者・精神病院で餓死させられた「障害者」の立場において、当然、「天皇来阪」即ち、下層労働者差別・「障害者」差別の行事としてとらえています。とりわけ、この時期は政府の労働政策の結果、大量の日雇労働者が失業し、市内に野宿を余儀なくされる時期であり、多数の労働者に対して、人権侵害と「狩り込み」(排除・隔離収容)が行われるであろうと惧れています。

私達は、このよおな一切の人権侵害・「狩り込み」を阻止する決意を表明すると共に、貴実行委員会において、このよおな方針の絶対なきよお、断固、申し入れられるものである

一九八六年四月 日

天皇来阪前段「狩り込み」阻止連絡会議

天皇「陛下御」在位六十年奉祝
大阪実行委員会 殿